

平成26年度 岡山県農林水産総合センター「水産研究所」 試験研究課題評価票

<事後評価>

- 総合評価凡例 5：著しい成果が得られた 4：十分な成果が得られた
 3：一定の成果が得られた 2：見込んだ成果を下回った
 1：成果が得られなかった

番 号	26-事後-1						
課 題 名	有用微生物を利用したカキのノロウイルス浄化法の開発						
課 題 の 概 要	ノロウイルス陰性カキの消化管内に特有に見られる細菌を探索し、17株を特定した。得られた細菌を用いて、ウイルス汚染消化管液を使用した実験系を組み立てた結果、2株がウイルスを不活化させる可能性があることが明らかとなった。						
評 価 結 果	区 分	5 点	4 点	3 点	2 点	1 点	平均点
	目標達成度	0 人	0 人	4 人	2 人	0 人	2.7
	有効性（効果）	0 人	2 人	4 人	0 人	0 人	3.3
	有効性（目的以外の成果）	0 人	2 人	4 人	0 人	0 人	3.3
	効率性・妥当性（費用対効果）	0 人	1 人	4 人	1 人	0 人	3.0
	効率性・妥当性（計画）	0 人	0 人	5 人	1 人	0 人	2.8
	成果の活用・発展性	0 人	5 人	1 人	0 人	0 人	3.8
	総合評価	0 人	2 人	4 人	0 人	0 人	3.3
助 言 ・ 指 摘 事 項 等	in vivo では成果があったが、in vitro における検証ができなかったのが残念である。自然界でのノロウイルスの発生状況に依存する側面があって、初期の目標に達成しにくかったという点は否めないが、計画は妥当であったと言える。また、ノロウイルスを不活化させる可能性のある細菌を検出したことは、画期的なことである。本手法によるカキの浄化は、業界、行政、消費者も待望していることであり、実用化に向けて残された課題を解決して欲しい。						

<事後評価>

- 総合評価凡例 5：著しい成果が得られた 4：十分な成果が得られた
 3：一定の成果が得られた 2：見込んだ成果を下回った
 1：成果が得られなかった

番 号	26-事後-2						
課題名	ノリ芽落ち対策技術開発事業						
課題の概要	ノリ葉状体をアラントイン処理し孢子細胞を得る技術を確立した。また、アラントイン処理したノリ葉状体の長期冷凍保存技術を検討した。						
評価結果	区 分	5 点	4 点	3 点	2 点	1 点	平均点
	目標達成度	0 人	2 人	4 人	0 人	0 人	3. 3
	有効性（効果）	1 人	2 人	3 人	0 人	0 人	3. 7
	有効性（目的以外の成果）	0 人	3 人	3 人	0 人	0 人	3. 5
	効率性・妥当性（費用対効果）	0 人	1 人	4 人	1 人	0 人	3. 0
	効率性・妥当性（計画）	0 人	2 人	4 人	0 人	0 人	3. 3
	成果の活用・発展性	1 人	4 人	1 人	0 人	0 人	4. 0
	総合評価	0 人	5 人	1 人	0 人	0 人	3. 8
助言・指摘事項等	<p>研究手法はオーソドックスであり、成果も予期していたものが現れている。本研究は芽落ち対策であることから、スピード感を持って実用化に取り組んで欲しい。一方で、実用化にあたって大量のノリ網を冷凍保存する場所と、保存に係る電気料金との関連で費用対効果を精査しておくことも重要である。また、この技術を活用して、優良な株の選抜育種、周年の養殖作業（糸状体管理）の軽減など、期待できる成果は大きい。さらに、孢子細胞を一括保管する孢子バンクや他県救済にも展開していく可能性があるのではないかと。</p>						